

■岩野泡鳴 詩人、小説家、評論家。つねに話題を呼び褒貶の渦中にあった特異な存在で、自然主義文学の一新風。

いわのほうめい

明治6年政変 1873 = 名東(兵庫)県津名郡(淡路島)洲本で長男に生まれる。

幼時から、神道思想・自由民権運動・キリスト教などへ関心を抱き、

明治14年政変 1881 = 8歳 :

新体詩抄・・・1882 = 9歳 :

大阪の泰西学館に入り、時代の風潮もあって、

国民之友始・1887 = 14歳 : 伝道師を志し洗礼を受けたが、

初の対等条約 1888 = 15歳 : 警察官だった父の転住で上京、明治学院に入学すると、キリスト教への情熱が薄れる一方、

帝国憲法発布 1889 = 16歳 :

この頃から滝沢馬琴を耽読、国木田独歩らと「文壇」を出したりし、

足尾鉦毒始・1891 = 18歳 : キリスト教教育家の押川方義を慕って仙台に赴き、東北学院に在籍して懐疑と煩悶を重ねるうち、エマソンへ傾斜して、ついにキリスト教から離脱。

劇作家を志すようになるが、

日清戦争始・1894 = 21歳 : 東北学院を出、帰郷。

滋賀県立第二中学校に勤務するうち、

劇作家を断念し詩作に道を求めて、

ピアノ国産化・1900 = 27歳 :

田中正造直訴 1901 = 28歳 : *第一詩集「露じも」の自費出版を機に旺盛な執筆活動に入る。

(明星)を主な舞台として発表するうち、

日比谷公園・1903 = 30歳 : 相馬御風らと雑誌(白百合)を創刊。

日露戦争始・1904 = 31歳 : 第二詩集「夕潮」、

日露戦争終・1905 = 32歳 : *第三詩集「悲恋悲歌」で、独自の世界が注目されるようになる。

満鉄発足・・・1906 = 33歳 : 小説「芸者小竹」を発表するとともに、評論「神秘的半獣主義」で利他的文芸観を開陳。

アララビ創刊・1908 = 35歳 : 詩集「闇の盃盤」、評論「新自然主義」、

伊藤博文暗殺 1909 = 36歳 : *小説「耽溺」で自然主義作家としての地歩を築くが、その後、樺太での伝話事業に失敗、女性問題で世間を騒がせるなど数奇な人生を歩み、その経緯を

韓国併合・・・1910 = 37歳 : 「放浪」以下の五部作としてまとめる一方、評論「悲痛の哲理」などで論も深化。帰京後は小説のモデルとなった女性と別れ、妻とも別居、別の女性と同棲して話題となり、執筆活動もますます旺盛となる。

明治天皇没・1912 = 39歳 :

大正政変・・・1913 = 40歳 : 短編集「ぼんち」。A・シモンズ「表象派の文学運動」などの翻訳もある。

21ヶ条要求・1915 = 42歳 : 第五詩集「恋のしやりかうべ」。独自の日本主義を唱えた「近代生活の解剖」「覚博士の古神道大義」。再び別の女性と同棲を始め世間の非難を浴びると、「男女と貞操問題」を著して反駁。

民本主義・・・1916 = 43歳 : 雑誌(新日本主義)創刊。

本格政党内閣 1918 = 45歳 : 「現代将来の小説的発想を一新すべき僕の描写論」で田山花袋の平面描写に対置する一元描写論を確立。それにもとづく「猫八」「浅間の霊」などの佳作のほか、精力的に執筆し、

大暴落・・・1920 = 47歳 : *「刹那哲学の建設」など、最後まで話題を呼び褒貶の渦中にあったまま、病没した。